

瑞穂中学校だより



【学校教育目標:ふるさとを愛し

心身ともにたくましく 主体的に学ぶ生徒の育成】

令和4年6月23日(木) NO.11 文責:校長 柏原 哲郎

HP アドレス <https://www.unzen.ed.jp/mizuhochu>



学校保健委員会

昨日6/22(水)に令和4年度第1回学校保健委員会が開催されました。学校保健委員会とは、本校の生徒の心身の健康の保持増進のために必要な指導及び援助をすることを目的に組織されたものです。

学校と家庭・地域の連携に加え、学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)の先生方の指導・支援を受けながら活動を推進していきます。学校保健委員会の構成メンバーは下記の通りです。(敬称略)

職名	氏名	委員会での役職名	職名	氏名	委員会での役職名
学校医	横田 美登志	顧問	2-1学級副集会長	辻 真由美	2年幹事
学校歯科医	根木 卓也	顧問	2-2学級副集会長	内田 直美	2年幹事
学校薬剤師	本間 滋	顧問	3-1学級副集会長	松坂 美鈴	3年幹事
育友会会長	鶴殿 光輝	会長	校長	柏原 哲郎	顧問
育友会副会長	坂口 良子	副会長	教頭	上田 敏浩	副会長
1-1学級副集会長	川崎 南	1年幹事	養護教諭 保健主事	植木 久子	幹事
1-2学級副集会長	宮崎 知佳	1年幹事			

学校保健委員会ではまず本校生徒の健康診断結果等について担当(植木)から次のような報告及び説明がありました。

- 身長・体重・・・身長、体重ともに県・国の平均より高い。給食は、全体的に食欲旺盛で残食はほとんどない。
- 肥満度・・・肥満度による栄養状態を見ると、全校生徒の86%が「普通」に位置している。極度のやせや肥満も見られない。
- 視力・・・裸眼視力A(1.0以上)の生徒が全校生徒の47.5%程度。6/17現在の眼科受診率が50%。
- 歯科・・・虫歯の保有者が全校生徒の中で7名。1人平均の虫歯の本数が1.23本。昨年度の本校1.5本、市平均1.7本である。全体的に口の中がきれいになっている。

次に、本年度の学校保健委員会の目標及び努力目標を下記の通り決定しました。

- ☆学校保健委員会の目標 ⇒ 健康についての意識を高め、基本的な習慣や態度を養う。
- ☆本年度努力目標 ⇒ インターネットやスマートフォンの使い方について、家庭でルールを決め、実行しよう。

今後、全校生徒対象のアンケートを実施するとともに、「アウトメディアチャレンジカード」の取組を行うこと等の説明がありました。インターネットやスマートフォンの利用については、保護者幹事の皆様からご家庭での利用状況についてのお話を伺いました。また、学校側からは予想されるトラブル例を紹介しました。

※参考：雲仙市統一ルール

- ① 夜9時以降は親が責任をもって使用させない。
- ② 親が責任をもってフィルタリング。
- ③ 人の悪口・個人情報絶対に書き込まない。

学校三師の先生方からは次のような助言等をいただきました。

学校医：横田先生より

新型コロナウイルス感染症については、都会は抗体保有率が高くなり減少してきているが、本市を含む島原半島では抗体保有率が低いのでなかなか減少しない。マスクについては現状維持が望ましい。

また、子どもたちが持ち帰ったコロナで感染させられたおじいちゃん、おばあちゃんは基礎疾患の悪化や合併症で苦しむこともあるので、やはり怖い病気だと認識するべきである。現在、真冬であるオーストラリアで、一昨年は全くなかったインフルエンザが大流行をしている。日本も昨年は流行しなかったが、今年度は大流行の危険性がある。予防接種を必ず受けてほしい。

インターネットやスマートフォンの利用については、ダメな部分の指導も大切だが、利用することの良さについてもっと学校でも指導してほしい。

学校歯科医：根木先生より

虫歯の保有者が全校生徒の中で7名という数字はすごい数字である。口の中が本当にきれいになってきている。保護者の意識も変わってきている。今後、さらに0に近づくようになると良いと思う。

学校薬剤師：本間先生より

学校の環境・衛生についてお手伝いをしていくことになる。特に、照明や換気等については大切である。また、生徒の意見を吸い上げて改善につなげたいという思いがある。薬物乱用防止にも力を入れていきたい。

学校保健委員会での貴重な話し合いの内容をもとに、これからの取組実践につなげていきたいと思えます。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

みずほ温泉千年の湯の掘削地質標本

瑞穂町公民館2階ホールに展示されていた標記標本が、公民館の取り壊しに伴い次の展示場所を探している中で、瑞穂町史談会の皆様から瑞穂中学校での一時預かりの依頼がありました。

この標本は、地下1055mまでの様子が一目で分かるようにした柱状標本と、10m毎の地質資料瓶を並べた物と、それらの解説パネルから構成されたものです。

また、この標本は島原半島ジオパーク推進連絡協議会からも学術的価値が高いと認められています。そこで、標本の次の展示場所が決まるまでということで、本校の理科室で一時預かりをすることにしました。その間は、理科の授業でも資料として活用場面があると思います。瑞穂町の地質を知ることを入り口として、雲仙市を含む島原半島の成り立ちの歴史も知ることができると思います。

